

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！5月末時点で、第2期生は2名が帰国し、7名が海外留学中です！

4月に帰国した第2期生今村さんからメッセージをいただきました

平成30年11月から6か月間、ニュージーランドのワイナリーで北海道でも栽培が可能となりつつあるワイン用ブドウ品種の栽培技術を学んだ今村直史さんから、今後の展望などについてメッセージをいただきました。

■海外での活動内容

2つのテーマを掲げて研修に取り組みました。1つ目は、近年北海道においても栽培に適した醸造用ブドウ品種となりつつある、ソービニヨンブラン、ピノノワール種の萌芽期から収穫期までの栽培作業の実践及び栽培技術の習得。2つ目は、ワインツーリズムの先進地NZで、その運営について学ぶことです。



■今後の展望

北海道を世界的な銘醸地にするために、研修で培った経験や知識を還元するとともに、現地で得られたワイン造り関係者との知己を活用し、NZと北海道のワイン造り関係者のネットワーク構築の手助けをしたいと考えています。

■応援していただいた皆様へ

6か月間にわたりサポートをいただきありがとうございました。渡航前、応援パートナーズリーダーが仰った「ワイン造りは国力だ」という言葉が、研修中も度々思い出され、研修を終えた今も大きな実感とともに心に響いています。北海道のワイン造りという挑戦は日本全体の挑戦でもあります。日本におけるワイン造りが世界へと打って出るために、巨大な可能性を秘めた北海道で、これからも地道に、前向きに、ワイン造りに携わって参りたいと思っています。

株式会社ポケモンからキャラクター使用の提案をいただきました

道と株式会社ポケモンは、昨年10月、包括連携協定を締結し、その一環としてみらチャレ基金にも御協力いただくこととなりました。具体的には、道内企業において、ポケモンキャラクター「アローラロコン」、「ロコン」を使用した北海道限定商品を開発し、商品販売に連動して当基金へ御寄附いただける場合、2021年3月までの間、キャラクター使用に御協力をいただける旨御提案いただきました。この御提案に御関心をお持ちいただけましたら、(株)ポケモンと調整をさせていただきますので、裏面下記載のお問合せ先まで御一報願います。



© 2019 Pokémon. © 1995-2019 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK Inc.
ポケモン、アローラロコン、ロコンは任天堂・クリエーション・ゲームフリークの登録商標です。

留学生たちの活動状況

学生留学コース

第2期生 伊藤 昂さん アメリカ、オーストラリア、オランダ ～スポーツビジネスを学び、北海道のテニス界の国際化に貢献～

テニスの国際大会が開催されるアメリカ、オーストラリア、オランダの3か国に、10月から10か月間留学中。

4月からオランダでの研修が始まりました。オランダでは主に、大会マネジメント、コーチング方法等について学びます。コーチング方法では、オランダでは基礎となる球出しが日本に比べて少なく、ラリーを練習の軸としています。練習参加者たちのコミュニティづくりを大切に、細かいコーチングをせず、練習を楽しめるプログラムを提供している点が特徴的です。



第2期生 立岩 文武さん オーストラリア（タスマニア）～大規模農業の手法を学び、北海道農業の持続を目指す～

大規模農業が進んだオーストラリアタスマニア州に、9月から10か月間留学中。

授業の中で無の栽培をしています。土壌分析データをもとに足りない元素を考え、不足を補うための肥料の量を計算・施肥し、経過を観察するという実験をしています。私のグレープでは圃場を4つに分け、植物が生長する際に必要となる窒素肥料をそれぞれの圃場で異なる量を施肥し、成長の結果から適切な窒素施肥のバランスを調べています。



第2期生 林 泰佑さん フィンランド（エスポー）～木造建築技術を学び、海外との架け橋となる建築家を目指す～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、9月から1年間、アアルト大学のウッドプログラムを受講。

4月中に図面を完成させ材料を発注する必要があったため時間の猶予がありませんでしたが、実験・検証してデザインを決定する姿勢は変わりませんでした。その中で、CNCというコンピュータ制御による3次元自動木材加工機械を用い、柱の溝を作る実験をしたのですが、コンピュータ任せでできる部分は任せるという考え方は、日本、特に北海道のデザイン教育現場ではあまり浸透しておらず、設備環境も整っていないと感じました。



第2期生 星野 愛花里さん キルギス（ビシュケク）～種子生産やその輸出入を学び、北海道農業との連携を目指す～

種子ビジネスの発展が期待されるキルギスに、12月から1年間留学中。

キルギスでは農作物の市場価格は大きく変動し、輸出するにもロットが足りないため、農家が安定した収入を得る方法を考えたところ、身近な需要を探しビジネスにするという案に行きつき、現在その体制づくりを手伝っています。首都で有機農作物を求める人たちがいるので、少量でも安定して販売できないか検討しています。



スポーツコース

第2期生 梅村 拓未さん ドイツ (ハイデルベルク) ～バルシューレを学び、子どもの運動課題を解決～

バルシューレの創設元ハイデルベルク大学で、7月から11か月間研修中。

ベビーバルシューレ（1歳半～3歳が対象）ではボールの他に様々な遊具を用いて、よじ登る、這う、ぶら下がるなどの運動をさせ、様々なスポーツに派生する力を身につけられるプログラムを組んでいます。日本の公園では、遊具が撤去されたり、ボールの使用が禁止されるようになってきているので、教育機関や地域のスポーツクラブが、そのような力を身につけられる環境を作っていくことが今後必要だと考えています。



第2期生 田中 怜恵子さん ニュージーランド (クライストチャーチ) ～本場でラグビーを学び、道内女子ラグビーの発展に貢献～

ラグビーの本場で、3月から6か月間、指導者と選手双方の立場からラグビープログラムに参加。

留学中は、モチベーションコントロールを特に学びたいスキルの一つとして活動しています。この2か月で色々なチームの練習に参加しましたが、どのチームの指導者も選手との信頼関係を確立しているように感じました。また、早いテンポで練習を進め、短い時間の中で集中力を高めたまま取り組めるようにしたり、選手たちに練習のポイントを質問形式で確認し、指導者と選手との会話のキャッチボールを繰り返すことで、キーポイントをより明確に認識、意識させていた点が特徴的でした。



文化芸術コース

第2期生 鴻野 祐さん フィンランド (エスポーほか) ～「木」を深く学び、デザイナーとしてまちづくりに貢献～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、7月から1年間、現地リサーチとアアルト大学のウッドプログラムを受講。

ウッドプログラムでは引き続き駅待合室の設計をしており、私は建物内家具の作成や施工方法を検討する役割を担当しています。現在作成中のベンチでは、素材、工法、強度について、美しくなおかつ快適なデザインとは何かを考えながら、モデルを制作しています。フリーランスの時は自分のアイデアを形にすることがメインでしたが、今は皆で出したアイデアをどのようにしたらより良くなるか考えることが多く、この経験から培ったものを、帰国後の自分の活動に活かしたいと思っています。



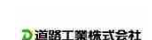
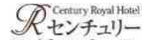
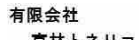
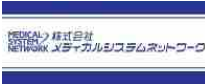
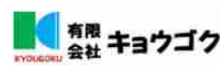
「ブラックニッカ ハイボール香る夜」でみらチャレを応援！



2019年6月から、「世界へ翔け！北海道の未来応援キャンペーン」として、アサヒビール(株)の北海道限定「ブラックニッカ ハイボール香る夜」の販売と連動した基金への寄附の取組がスタートします。2018年度にも2回実施した同取組の第3弾となり、6月から8月まで3か月間、販売1本につき1円を基金のスポーツコースにご寄附いただきます。

応援パートナーの皆様

(令和元年5月現在・敬称略)



有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黒 敬三 佐藤 友昭 (税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士) 鈴木 伸明 武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長) 船津 秀樹 その他匿名希望の個人・企業4者

北海道総合政策部政策局総合教育推進室

TEL : 011-206-7380 (直通) FAX : 011-232-6313

E-mail : mirai.jinzai@pref.hokkaido.lg.jp

ホームページ : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>



助成対象者のチャレンジ風景をお届けします。

